

## 中国共産党大会と党中央

今回は2022年10月開催の中国共産党第20回党大会をとりあげましょう。そもそも中国共産党とはどういう存在なのでしょう？これを語り出すと、6回の連載ではとてもではないですが収まり切れません。

幸いなことに、昨年(2021年)が結党百周年だったこともあり、関連書籍や論文・レポートがけっこう出ていますので、詳細はそれらに任せるものとして、以下では党人事を中心に述べる程度に止めておきます。

中国共産党の党員数は2021年末現在で9670万人ですから、頭数では国別人口で世界第15位のヴェトナムまたは同16位コンゴの人口相当の規模の世界最大の政党ということになります。しかし、その一方で14億という中国総人口の約7%に過ぎません。

中国の現行憲法を読む限り、中国は共産党が国家の上に立つ党政国家であることが理解できます。また、非党員の大多数の一般の人々や他の民主諸党派の人々も一定の政治的発言権を有するものの、実質的な意思

決定はさまざまな企業単位(職場)に必ず配置されることになっている党書記の指導を中心に行われているのが実情です。

さて、共産党には党の憲法とも位置付けられる「党章」と呼ばれる党規約があり、そこで規定されている形式上の最高機関が全国代表大会(党大会)とそこで選出された中央委員会ということになります。このうち、党大会は、原則として5年に一度、1週間のスケジュールで開かれ、初日に党総書記が過去5年間の中国を振り返り、次の党大会までの5年間の重要方針を述べる活動報告を行うことから始まり、開催期間中は国政にかかわる重要政策を議論し、党規約も改正するという重要な会議です。そして党大会最終日の投票で選出された党、政府、国有企業、軍

などの主要な幹部を中心とした200人程度の党中央委員から構成される党中央委員会が成立することになります。なお、新聞報道等によく見かける表現ですが、第X回党大会で選出された中央委員が集まる全体

会議を回数ごとに、中国共産党第X期中央委員会第〇回全体会議(または総会)と表現され、「X期〇中全会(または〇中総)」という風に略記されます。なお、第20回党大会に前後して同月(2022年10月)に開催されたのは19期7中全会と20期1中全会の2つということになります。

中央委員の主な職責は上記各全体会議(総会)での重要な人事面や政策面での意思決定であり、これが党規約にもとづく、党大会閉会中の最高決定機関としての役割となります。もっとも、これら全体会議も年1〜2回、いずれも1週間ほどしか開催しませんから、中央委員の職権は、上位の中央政治局委員と中央政治局常務委員が日常的に代行するというかたちをとることになります。なお、中央政治局委員は党大会最終日の翌日に開かれる1中全会で中央委員の中から20数名が選ばれ、さらにその

中央政治局委員の中から7人(胡锦涛瀋政権時代までは9人)が中央政治局常務委員として選ばれることになります。つまり、党大会↓中央委員

↓中央政治局委員↓中央政治局常務委員といった順に権限が上方シフトしての上位7人が最高指導部と位置付けられ、彼らがピラミッドの頂点として14億人の国民および1億人近くの党員の上に立って、最終的な意

思決定の判断が委ねられることになるわけです。したがって、この7人それぞれのこれまでの活動経歴が今後の中国の行方を占ううえでの判断基準の一つとなると言っても過言ではありません。(次号へ続く)

## 生体防御の最終兵器 “抗体”

コロナ・ワクチンから抗体医薬まで

わだ い 浪 切 サ ロ ン  
第143回

- 話題提供者
- 開催日時
- 参加費
- 開催方法
- 問合せ先

大阪公立大学 研究推進機構・特任教授 藤井 郁雄氏

2023年1月18日(水) 19:00 ~ 20:30

無料 ■ 申込方法 右記QRコードから

南海浪切ホールでの講演と「ZOOM」によるオンライン

和歌山大学岸和田サテライト TEL / FAX : 072-433-0875

